

# 県立学校の募集停止・分校化の再考を求め る申し入れ書

2008年6月13日 日本共産党県会議員 佐々木泉

愛媛県教育委員会委員長 井関和彦 殿

昨日発表された県立学校再編整備計画案によると、全日制課程では上浮穴高校、長浜高校、三崎高校、三瓶高校を分校化、今治北高校大三島分校、松山北高校中島分校の募集停止による事実上の廃校、中山高校、三間高校、東予高校普通科の統合による廃止、定時制課程では北宇和高校日吉分校、大洲高校肱川分校、西条高校の募集停止などを計画しています。

これにより、2013年度までに大三島分校、中島分校、中山高校、三間高校、肱川分校、日吉分校が姿を消し、ほかにも定員引き下げ、学級削減などが予定されています。

また、特別支援学校についても今治養護学校太陽の家分校（四国中央市）、同東予分校（西条市）、宇和養護学校野村学園分校（西予市）、同大洲学園分校（大洲市）を廃止する方針としています。

それぞれの学校は、地域の大切な教育拠点として欠かせない役割を果たしており、住民にとって募集停止や分校化は地域の灯が消えていく思いであると推察します。創立の際には、土地の提供や整地などまでに地元の多大な協力を得ており、生徒減によって存続が危ぶまれる中で、同窓会などがなんとか母校の歴史を守ろうと尽力していることも聞き及んでおります。

貴教育委員会が、さまざまな角度から検討を加え、今回の再編案をまとめたことはわかりますが、いったん廃校、分校化してしまうと、学校を復活させるのは至難の技といわなくてはなりませんし、これまで培われた中学校での進路指導や地域の協力体制などにとっても取り返しのつかない障害となります。

また、少子化・過疎化のなかで地域でがんばる青少年の育成、子どもをとりまく複雑な教育環境のなかで他地域からの生徒の受け入れなど多様な選択の受け皿としての機能、さらには、少子化・過疎化そのものを解決する展望の中での位置づけなど、今回の再編案は県民によって、再検討される必要があると考えます。

松山盲学校と松山聾学校の統合は今回見送り・統合の方向性維持ということになりましたが、数万に及ぶ反対署名が2度も提出されていることから、統合中止を打ち出すべきではなかったかとの強い声が聞かれます。

そこで、この再編案を正式決定する8月定例会までに、地元住民や教職員はじめ多くの関係者から意見を聞くなど、慎重にすすめていただくよう、以下のように申し入れます。

- 一、 県立学校再編整備計画案については、これを最終方針とせず、関係者の意見をよく聞き、募集停止・廃止や分校化することなく現行存続する道を探求すること。
- 二、 松山盲学校の松山聾学校への移転統合を断念すること。 以上